

第40回全国ホテル研究大会報告

研究大会の概要

全国ホテル研究会の第40回大会が平成19年6月16日～18日の3日間、鳥取県鳥取市にて、全国ホテル研究会主催、第40回全国ホテル研究大会鳥取実行委員会主管、環境省、鳥取県、鳥取県教育委員会、鳥取市、鳥取市教育委員会、鳥取市歴史博物館、樗谿ホテルの会、鳥取県ホテルネットワーク、鳥取市観光協会、NHK鳥取放送局、読売新聞社大阪支局、新日本海新聞社、山陰中央新報社の後援をいただき、「新しい時代を迎えた ホテル環境」を大会テーマに盛大に開催され、全国各地から240名の参加をいただきました。

15日午前11時30分から午後1時30分まで研究大会会場でもある鳥取県民文化会館にて受付が行われ、午後1時30分から岡村喬子さんの司会で、開会式セレモニーが開催されました。山崎健一実行委員長によるオリエンテーション後、藤原正実行委員会会長、竹内功鳥取市長ら来賓の挨拶がありました。また、壇上の古田会長や「ほたる



鳥取市立美保小学校3年生105名によるホテルの唄の合唱

こい」の作詞作曲者のご子息三上晃氏、中国電力鳥取支店長有井良和氏ら来賓の紹介がありました。そして鳥取市立美保小学校3年生105名によるホタルの唄の合唱と続きました。

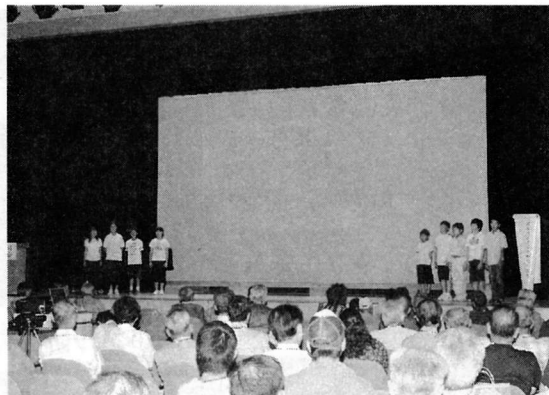
開会式セレモニー終了後、各自ホテルへ移動してチェックインし、午後4時30分からホテル・モナークを会場に分科会が開催されました。分科会は昨年と同様「ゲンジボタル」「ヘイケボタル」「ヒメボタル」の3分科会となりました。

夕食後、各自樗谿公園へ移動し、樗谿の入り口にある鳥取市歴史博物館やまびこ館のホタル展の見学と樗谿のホタル鑑賞をしました。やまびこ館のホタル展は今年が6回目で、今回は「ほたるがりの情緒～錦絵の蛍・魅せられた人々～」というテーマで、螢狩りやホタルが描かれている納涼図などの錦絵と、樗谿でホタルの保護活動をされていた村上美佐男氏をはじめ、南喜市郎氏、原志免太郎氏などホタルに魅せられた人々が紹介されていました。

明けて16日、9時30分より岡村喬子さんの司会で開会式が始まりました。開会宣言を中村副会長が行い、続いて古田会長の主催者挨拶の後、平井伸治鳥取県知事による歓迎の挨拶、常田享詳参院議員の来賓挨拶と続き、最後に上杉栄一鳥取市議会議長、住田高市鳥取歴史博物館館長ら来賓としてご列席いただいた方々の紹介が行われ開会行事を終了しました。



ルーテル幼稚園児の発表



鳥取市立久松小学校6年生の発表

開会式の後、休憩を挟んで最初に、地元鳥取市で活動され、本研究会の事務局を長く努められた故村上美佐男氏のご子息、村上伸茲氏による「文献からみた“村上美佐男のホタルを通しての自然観”」と題した記念講演が行われました。その後研究発表に移り地元発表として、鳥取ルーテル幼稚園年長組の園児、鳥取市立久松小学校6年生の児童による活動報告、鳥取市歴史博物館の仮谷直樹氏による博物館のホタル展の取組みが紹介されました。続いて村上光正氏の「デジタル時代のホタル撮影」の発表があり午前中

の部を終了しました。午後からは会員による8件の研究発表があり、続いて前日の分科会の報告が各分科会の座長より行われました。最後に休憩時間を挟んで、40回総会が開催されました（総会報告参照）。

研究大会終了後は、ホテル・モナークに会場を移し、懇親会が開催されました。懇親会では山崎智子さんによる司会で、山崎健一実行委員長の歓迎の挨拶、鳥取ガス株式会社社長小島祥悟氏の来賓挨拶が行われました。続いて鳥取市の竹内功市長から、次期開催地である長崎市の長崎市環境課原田穰氏、長崎ホテルの会の富工妙子氏に大会幕の受け渡しがあり、次期開催地代表挨拶が行われました。上杉栄一鳥取市議会議長による乾杯の後、横枕有志のや因幡の傘踊り柴田洋二さんのどじょうすくいなどがあり、最会挨拶後に大会会長の藤原正氏の閉挨拶で楽しい宴も終わりました。



大会幕受け渡しで挨拶する竹内市長

17日は9時から希望者による市内視察があり、故村上美佐男元会長の自宅の研究室や鳥取大学の砂丘研究所、鳥取砂丘を回りました。

午後からは協賛行事（主催、やまびこ館）として、鳥取市歴史博物館やまびこ館で、大場信義氏を講師に「ホテル博士の冒険ばなし」と題した講演会が行われました。

会 場：鳥取県鳥取市 鳥取県民文化会館

大会日程：

6月15日（金）

- | | |
|-------------|-------------------------|
| 11：30～13：30 | 受付（鳥取県民文化会館・小ホール） |
| 13：30～14：30 | 開会セレモニー（オリエンテーション，合唱ほか） |
| 16：20～17：30 | 分科会 |
| 20：00～ | ホテル観賞ほか（樗谿公園，やまびこ館ホテル展） |

6月16日（土）

- | | |
|-------------|--------|
| 9：30～10：00 | 開会式 |
| 10：00～15：30 | 研究発表 |
| 15：30～16：30 | 第40回総会 |

19：00～21：00 懇親会（ホテル・モナーク）

6月17日（日）

9：30～12：00 市内視察（村上美佐男氏宅研究室，鳥取大学砂丘研究所（アリドドーム），鳥取大砂丘）

協賛行事

14：00～ 講演会（講師：大場信義氏 会場：やまびこ館）

記念講演：

文献からみた“村上美佐男のホタルを通しての自然観” …………… 村上 伸茲

研究発表：

①鳥取ルーテル幼稚園園児によるゲンジボタルの飼育について …… 松木 宏

②おうちだにのホタルとわたしたち …………… 鳥取市立久松小学校6年生

③鳥取市歴史博物館のホタル展 …………… 仮谷 直樹

④デジタル時代のホタル撮影 …………… 村上 光正

⑤人工移入によるゲンジボタルの地域個体群における遺伝的構造への影響
…………… 草桶 秀夫

⑥幾つかの飼料によるゲンジボタル幼虫の飼育 …………… 大内 紘三

⑦ホタルの移植と生息地管理手法～米沢市小野川の事例 …………… 蔦 幹夫

⑧ホタル成虫にタケ、マルハナバチ蜜投与の影響 …………… 山岡 誠

⑨ゲンジボタルとヘイケボタルにレンシュの法則は当てはまるか？
…………… 井口 豊

⑩新しく確認されたヒメボタルの発生地とホタルの体型からみた分布の特異性Ⅲ
…………… 三石 暉弥

⑪近畿地方におけるヒメボタルの遺伝的構造 …………… 日和 佳政

⑫クロマドボタルの擬死行動 …………… 大場 信義

（共同発表の場合は発表者のみ）

大会開催地より

第40回全国ホタル研究大会を終えて

第40回全国ホタル研究大会大会会長 藤原 正*

第40回鳥取大会は3日間とも天候に恵まれ、1日目の現地視察ではホタルの飛翔数はピーク時の4000匹より5日後の1600匹でしたが、狭い公園としてはまずまずのホタルでご満足戴けたと思います。2日目の研究発表や総会での懸案の所謂「移植の指針」の採択、夜の交流会も有意義に進行できたと思います。現地視察していただいた「鳥取市^{おうちだに}樗谿ホタルの里」の規模は樗谿川400mを含めた4.6haの風致公園で、13年前に池や川の石垣などの整備をした、いわば管理型の公園です。参加された会員の皆様、全国ホタル研究会事務局の方々にはご理解と協力を戴き概ねその目的が達成されました。心よりお礼申し上げます。

「ホタルの里」づくりにおいては、地球温暖化による環境変化や台風被害、また、貴重生物保護の立場から「生物多様性の保全」などを求める方々との協調が必要となってきました。かねてから全国大会を始め、内外の研究者の発表でも警鐘が鳴らされていたことではありますが、昭和30年代農薬などによるホタルの絶滅が叫ばれた時代から現在は貴重生物保護、外来種撲滅運動などが、各県で進められる新たな時代になってきたことで「移植の指針」の役割が重要になり、ますます全国ホタル研究会の役割が大きくなっていくように思われます。

鳥取市近郊^{きさいち}の私都川にゲンジボタルが大量自然発生との情報に触発され、発生地を数年間に亘り調査しましたが、その結論は次の通りでありました。

ホタルの自然発生地はいずれも昼間は十分な太陽光を受けた水面であり、且つ夜間は人工照明のない暗い場所で、自然生態系の中でホタルが原始的植物の藻類やプランクトンに依存していることを示すものである。

給仕よりも省力的、省コストでしかも持続可能で自然生態系の多様化を促進するものであり、そのバルメーターとしてホタルの発生も盛んになり藻類に依存する水生昆虫等の生物が豊富になるなど、自然環境保全への道をさぐっていきたいと思います。また、地球温暖化によって台風が頻発し、その洪水によって生物資源の流出被害が増加する傾向にあります。私都川^{きさいち}井古集落下流のホタルも平成16年の度重なる洪水で壊滅的に流出し、翌17年にはホタルの発生数が1～2桁代、18年には2～3桁代、平成19年で3～4桁代までに回復していますが、これが自然の法則であると思われれます。

「^{おうちだに}樗谿ホタルの会」では観察記録を10年間継続して蓄積して役立てています。公園内を流れる^{おうちだに}樗谿川が極めて小さい川で幼虫の上陸風景などが容易に観測できることから、

毎年4月上旬より6月までの水温、気温、幼虫上陸数、成虫発生数、「ホタル鑑賞参加者数」などを観察記録しています。これは鑑賞会期間の設定が幼虫の初上陸する4月初旬頃に予測できて、行事日程の準備を始めるのに有効な技術です。「鳥取市^{おうちだに}栲谿ホタルの会」では「ソメイヨシノ桜」の開花日とゲンジボタルの幼虫の初上陸日は開花から2週間後とし、初上陸が決まれば6月のホタルの初飛翔が予測できます。栲谿川固有の技術としています。これにより、4月の桜の開花日の時点で6月を待たずしてホタル鑑賞会の期間が設定でき、その年のホタル状況の予想ができマスコミをはじめ行政、観光関係者に情報提供が可能となります。また、原志免太郎著「螢」に昭和初期まで病気見舞いにホタルを入れた「ホタル籠」を持って行く風習があったと記されていますが、

ホタルの癒やし効果は決して他人事ではなく、現代でも見直すべき課題ではないかと考えています。会員の皆様のご意見をいただければありがたいと思います。

最後に、鳥取市では学者、県立博物館学芸員が数年前から栲谿ホタルが盛大であることから、また、この公園が豊かな自然環境であることからホタルだけでなく希少生物のとの共生を目指すべき公園として川や公園の管理者の県市への働きを強めています。私共も十分理解して共存の道を目指して協議に応じています。第1回の協議のマスコミ記事を提供しますので、会員の皆様のご意見がいただければと思います。また、各県でホタルが貴重生物保護に指定されたりレッドデータに認定されている県があればお教え下さい。（栲谿ホタルの会事務局／山崎健一まで：FAX 0857-29-5240）

*栲谿ホタルの会会長

栲谿のホタル 生態系考える

鳥取で初の意見交換会

ホタルの名所として親しまれている鳥取市上町の栲谿公園の自然保護のあり方を検討する初の意見交換会が三十日、市内で開かれた。市民団体のホタル保護活動が生態系に影響を及ぼすと恐れられていた。関係者に問題を討議。出席者から「どんな公園を目指すかによって、自然保護のあり方も変わる」などの意見が出された。意見交換会は県東部総合事務所は昨

合事務所の呼びかけで開き、ホタル保護に取り組む「栲谿ホタルの会」のメンバー、県立博物館の学芸員ら研究者、公園を管理する鳥取市や関係者が出席した。

鳥取市都市計画課の秋田俊一郎課長は「シーズンには三万人が訪れる観光名所。本来の生態系を乱さない程度の住み分けができないのか探りたい」とした。

一方、県立博物館の川上靖自然担当副主幹は研究者の立場から「生物多様性に富んだ栲谿公園を次世代に残すことがわれわれの使命ではないか」と問題提起した。

2008.1.31付 日本海新聞

全国ホタル研究大会鳥取大会ではお世話に

米澤 正美*

皆さん今日は。鳥取大会ではお世話になりました。お陰様で無事故で成功させて頂きありがとうございました。厚くお礼申し上げます。会員もかなり奮闘致しました。やはりチームワークですね。

さて、この大会ではホタルの乱舞という「テーマ」を考えてみました。かねてより^{おうち}樗^{だに}谿公園で「乱舞」という場面があり、^{おうちだに}樗谿川でもこの様な事に出会わないかなと思ひ日々研究し続けました。年々結果が出始めホタル育成にも力が入り出し、あらためてホタルという生物を考えて飼育し研究し続けました。河川の問題、地形、立木、光合成、電灯などさまざまな問題点をチェックし解決させ、ホタル環境が改善出来はじめました。もうすこし頑張れば乱舞が見えるかなと云う所まできた平成16年、台風による洪水にあい、幼虫が流れてしまいました。今までの研究が頭の中では真白でした。

後で考えてみて、あ！これも研究なんだと気が付きました。そう思うと気持ちも楽になりました。洪水後この川ではどの程度のカワニナでホタルが生き残るかとか、川の研究が逆に出来ました。この研究は思いつきもしませんでした。この川ではホタルの幼虫は1/3位残ることがわかりました。そこで17年度からは全国ホタル研究会鳥取大会に備え着々と整備し念願の乱舞にいどんだ結果、大成功4,000匹ものホタルが乱舞しました。かなりの苦労もありましたがとても感激でした。皆さまにもこのホタルを見て貰えました。やはり生物は生活環境なんだと言うことが良く解りました。

最後に皆さまにお世話になりありがとうございました。

*樗谿ホタルの会事務局長

◎開会セレモニーで合唱をして頂いた、鳥取市立美保小学校3年生の学年通信「わくわく3 ホタル特集号」に掲載された児童の感想文を転載させて頂きました。

今日は、ホタルの発表会本番。お父さん、お母さん、おばあちゃん、ちっちゃいおばあちゃんが来ます。この会でわたしが詞を考えた、ホタルの夜を発表します。自分が考えた歌をみんなが歌っているのを見ると、きんちょうします。わたしたちが出てきました。パチパチパチパチ。パチパチパチ。

「人は少ないけど、なんかピアノ発表会の時みたいだな。」
と思いました。でも、発表会の時みたいなのドキドキはないよ。もうすぐおわりだ。スラ
スラできたよ。

「これで、美保小学校の発表をおわります。れい。」

パチパチパチパチ。パチパチパチ。

今日はふあんばってできてよかったです。もうすぐ、まくがとじようとしています。

6/17 今日、ほたるの発表会がありました。さいしょに大きいバスにのりました。三人でのりました。ぼくはバスによってきもちわるかったです。県みんな文化会かんといいところに行きました。中に入ると、大きなへやの中でペンライトを先生からもらいました。ペンライトはとっても明るくてとくにくらいところではすごい光でほんとうのホタルがきている感じがしました。そしてほんとうの発表会がはじまりました。ぼくはいっしょうけんめい大きな声をだしました。そしてペンライトをくらいところでやったらほんとうできれいでした。とってもきれいでした。とってもおもしろかったです。

今日は鳥とり県みんな文化会かんで、(第40回全国ホタルけんきゅう大会鳥とり大会)がありました。ぼくたちみほ小学校3年生は、合しょうをしました。学校で、何回もホタルの練習をしたけど、本番でうまくできるかしんばいでした。ぼくは、ドキドキしてきんちょうしました。お母さんが見に来てくれると言っていたので、どこにいるのかなあーとさがしました。そしたら、お母さんが手をふっていたので見つけることができました。ぼくは、みんながとっても大きな声をだしてがんばっていたので感動しました。家に帰ったら、お母さんが「みんながんばってたね。本当のホタルがとんでいるみたいだったよ、キレイだったなあー。」と言ってくれました。とってもうれしかったです。こんどは本当のホタルを見にいきたいです。

新刊書の紹介

□ホタルの国から—沖縄・久米島のクメジマボタル— 2008年2月発行

さとうなおみ・さとうふみやす 写真・文, 新日本出版社, 1,400円+消費税



※7種類のホタルが生息し、成虫・幼虫の光が一年中輝く久米島から「ホタルの国から」というブログを発信している著者が、1993年に日本で3番目の水生ホタルとして発見されたクメジマボタルを中心に、久米島に生息する陸生のホタルを紹介するとともに、赤土汚染など久米島が置かれている環境問題や久米島ホタルの会の活動が紹介されています。この本は、世界中で久米島だけに生息する貴重なクメジマボタルが絶滅の危機に瀕している意味を私達に問いかけています。